

隣保館だより

2021年1月

発行 新発田市隣保館

住吉町2丁目3-38

TEL/FAX 26-5984

今年もよろしくお願ひします！

2020年は新型コロナウイルスのため、毎年楽しみに計画していた「隣保館まつり、寄せ植え、人権紀行、ふれあいサロン、舞踊発表会」を中止とさせていただきました。多くの方から問い合わせや「残念だ」等の声をいただきました。しかし、10月からは「ふれんど・すくーる」も始まり、子どもたちの元気な姿も戻ってきました。一日も早く皆さんと集えるよう「感染防止」をしっかり行い、安心して利用できるよう工夫し事業を進めていきたいと思ひます。

隣保館へようこそ！

住吉小学校3年生、七葉小学校6年生、川東小学校6年生が隣保館について学習に来ました。



【住吉小学校3年生】

(住吉小学校からのたより)

学区にある隣保館はどういうところなのかを調べに隣保館に行きました。隣保館の職員の方や、人権啓発課の方から説明をしていただきました。また、利用者の方が日本画教室をしているところも見せてもらいました。地域に根ざした憩いの場として活用されていることや、人権啓発の取組を行っていることも教えてもらいました。「新潟県に隣保館が1つしかないことに驚いた」「もっと隣保館に行って、調べてみたい」「夏の隣保館祭りに行ってみたい」など、隣保館の活動にさらに興味をもった子どもたちでした。



【七葉小学校6年生】

(七葉小学校からのたより)

一人ひとりが大切にされる「人権のまちづくり」をめざす、新発田市の取組みや、隣保館の役割について学びました。また、部落差別をはじめとするあらゆる差別について、学習を深めました。「学校で学習している差別のことを、市も取り組んでいることを初めて知った」「友達の悩みを『関係ない』ではなくて、一緒に考えることができる人になりたい」「まずは自分が差別をなくす一人にならなければいけない」など、差別の問題について真剣に考え、自分に結び付けている姿が見られました。

2020 しばた人権フェスティバル

2020年12月13日(日)に、新発田市生涯センターで、「2020しばた人権フェスティバル」を開催しました。

今年は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、規模を縮小し、講演会はリモート形式で行い、3密対策をしての開催となりました。

午後の講演会は、諏訪赤十字病院の臨床心理課長の森光玲雄さんに「10年後の私たちへ～コロナ差別から見てきたリスクとの向き合い方～」と題し、新型コロナウイルス感染症がもたらした大きな人権問題である「コロナ差別」について、「なぜ起こってしまうのか」という排除が生まれるメカニズムと、それに対して「私たちができることは何だろうか」、ということについてお話していただきました。



講師
諏訪赤十字病院
臨床心理課長 もりみつ れ お 森光玲雄さん

「なぜ排除行動が起こってしまうのか」

生存本能としての
「不安や恐怖」→
「病気は怖いもの
だ」という心理



脳の習性としての「ラベ
ル思考」→ 細かいとろ
こまでは確かめようとせ
ず、リスクのありそうな対
象を一括して遠ざけてし
まう考え方



社会的動物としての「社
会規範意識」→「人に
迷惑をかけない美德」と
いう「個より集団」意識に
上乗せされた「コロナ、感
染＝悪いもの」という「集
団潔癖」意識



私たちにできることは・・・

1 正しさの多方面に気づく

感染対策は拡大を防ぐために必要なことですが、その正しさを求めるあまり、相手を傷つけていませんか。

2 「感染＝悪いこと」という集団認識を和らげる

感染するリスクは誰にでもあります。感染症と共に過ごしていく姿勢を広めていきましょう。

3 「人にやさしく」具体的な行動に

感染者が自分の生活圏で「確認される前」、「確認された時」、「確認された後」にできることを実践しましょう。

大切なのは、「選択すること」

不安を排除し、安全を手に入れたいという思いから、感染者やその家族に対し、誹謗中傷や差別行為を行うことはあってはいけません。

私たちは、外からの刺激(ウイルス)に対して、理想とする未来の実現に向け、行動を「選択」することができる力を持っています。感染した方が元の生活に戻ることができ、また、身体に異変を感じている人が安心して受診できるよう、私たちにできる「選択」を考えてみましょう。

2020 しばた人権フェスティバル 午前講演会

コロナの陰でステイホームできない少女たち

10代、20代の生きづらさを抱えている若い女性たちを支援するため、2009年に「BONDプロジェクト」を立ち上げ、東京・渋谷を拠点に活動しています。

活動内容は、「聴く・伝える・つなげる」こと。全国からのLINEやメール、電話、面談を通し、必要に応じて弁護士と連携し、他専門機関へ繋ぐ「動く相談窓口」としての役割を担っています。

4月に新型コロナウイルス感染拡大に伴う「緊急事態宣言」が発令。外出自粛・休業要請により「ステイホーム」の掛け声の下、多くの人が自宅で過ごすことを余儀なくされました。「家が安全、安心できる場所ではない」「親からの暴言も悪化した」「居場所がなくSNSで居場所を求め、性被害に遭ってしまった」など、追い詰められている少女たちのSOSが全国から届いています。

10代20代の女の子のための自立準備のための家「ボンドの家」を運営しています。公的支援に繋がれない、制度に辿り着けない女の子たちに料理などの生活習慣の獲得、心のケア、自立へのサポートを提供しながら、いろんな経験や繋がりを自分のものにし、自分の足で立つ力を後押ししていきたいと思っています。

他人ごとでなく“自分ごと”として考える人たちが増えていって欲しいです。



講師
NPO法人BONDプロジェクト
代表 橘 ジュンさん

2020 しばた 人権フェスティバル 会場内の様子



「人権イメージキャラクター」



「森光玲雄さん講演会」



「本人通知制度登録窓口」



「パネル展示」



「ホワイエ」



「講堂内」



【コロナに負けるな～壁面アート～】

(住吉小学校からのたより)

新型コロナウイルスが流行し、学校行事を行うことができないため、6年生が素敵な活動を企画しました。それは、折り紙を使ってドット絵を作る、全校アートです。1～6年生1人1人が、「みんなへのあたたかいメッセージ」「コロナウイルスに負けないという決意」を折り紙などに書きました。そして、6年生が全校分集めてドット絵にし、きれいな虹を作りました。全校で1つの作品を作ることができ、共に困難を乗り越えようとする意識を高めることができました。「やまない雨はない 雨がやんだら虹がかかる」の言葉のように、一丸となって、今の状況乗り越えていきます。



元気に活動開始！ ふれんど・すくーる

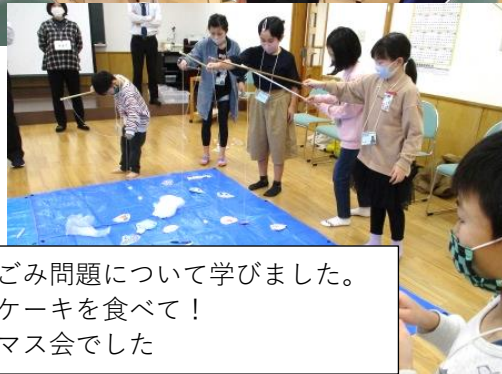
ティモシー先生と英会話に挑戦！



今年は、住小、猿小、七葉小の友だち
14人でスタートしました！



理科センターの先生と実験中。なるほど～



プラスチックごみ問題について学びました。
音楽を聴いてケーキを食べて！
楽しいクリスマス会でした